

令和八年度

一般選抜問題 一期【二日目】

国語

【試験時間 午前十時～午前十一時】

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 二、国語の問題は一ページから十四ページまであります。
- 三、解答用紙は一枚です。
- 四、試験中に問題冊子および解答用紙の印刷不鮮明、落丁（ページの脱落）・乱丁（ページの乱れ）に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 五、問題冊子の余白等は自由に利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 六、試験時間は六十分です。
- 七、受験番号と氏名は、解答用紙の指定された欄に記入しなさい。
- 八、解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入しなさい。
- 九、必要以外のことを解答用紙に書いてはいけません。
- 十、問題冊子は持ち帰りなさい。

— 次の文章は、増田隆一『ヒトとヒグマ——狩猟からクマ送り儀礼まで』の一部分である（ただし、少し書き換えた）。読んで後の設問に答えなさい。

（五十点）

□

A

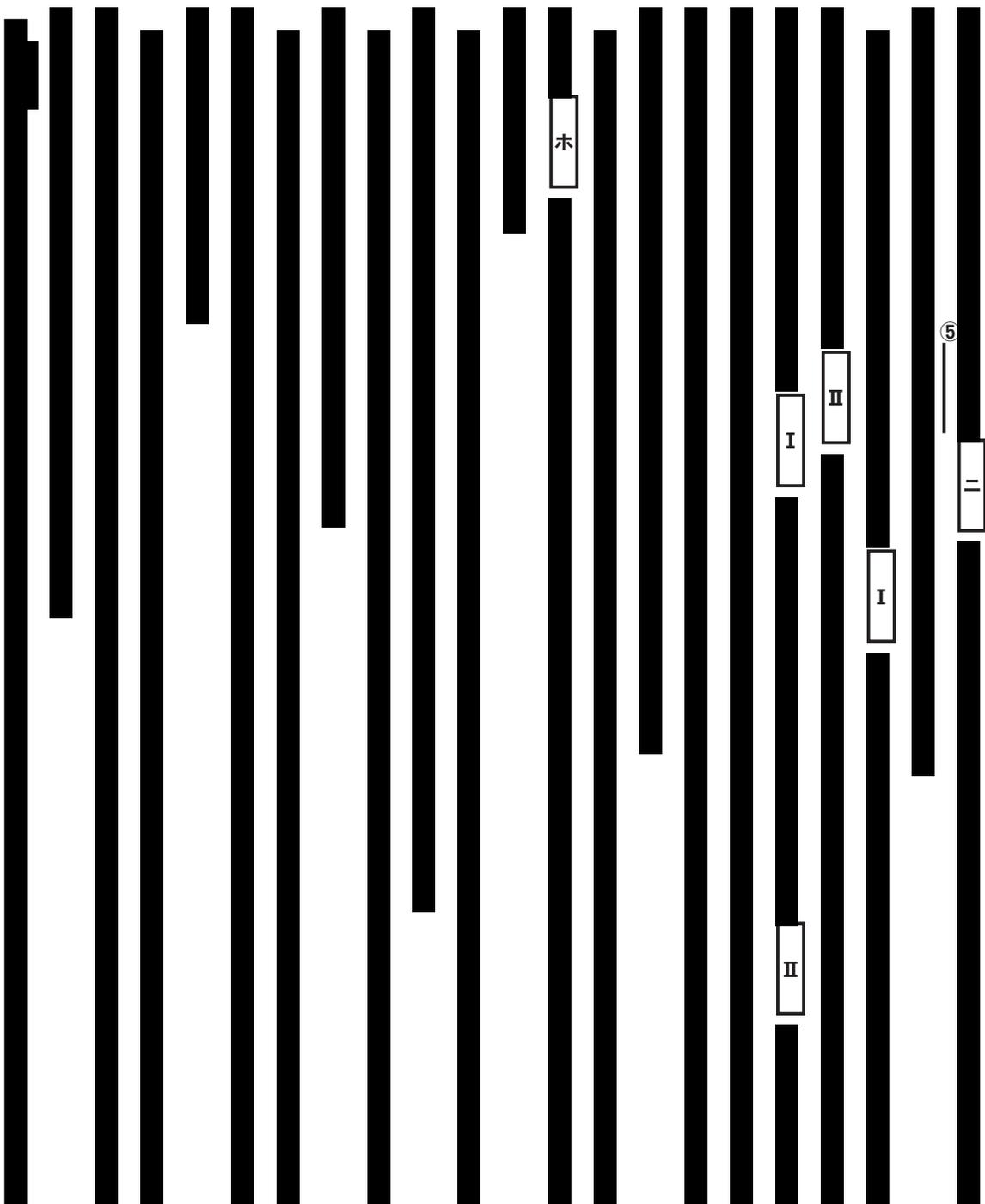
イ

[REDACTED]

④

C

③



(増田隆一『ヒトとヒグマ——狩猟からクマ送り儀礼まで』より)

D

E

[Redacted text block]

問一 傍線部①～⑤について、カタカナを漢字に、漢字はその読みをひらがなで書きなさい。

問二 空欄 ～ に当てはまる語句を次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい (ただし、使用は

一度のみ)。

- a たとえば b 一方 c 逆に言えば d つまり e もちろん

問三

傍線部 A

ら二つを選び、記号で答えなさい。

とあるが、この例としてふさわしくないものはどれか。次の中か

- a 広大な砂漠に囲まれたオアシスの村で、土塀でできた住居の中が美しい民族織物で飾り立てられており、庭には手入れされたブドウ棚があって、木陰が強い日差しを和らげていたこと。
- b 日本では味わえない食材やスパイスを使った美味しい中央アジアの料理や、民族独自の言葉や衣装を守るために、突然訪問した見ず知らずの旅人は受け入れにくい習慣があったこと。
- c 現地の人の間で話されている会話の話題は、現地の日常生活や仕事のことであったが、通訳を介して聞くと私たちが日本社会で生活しているときとほとんど同じところがなかったこと。
- d ジャングルの中の高床式住居で、床下や庭で何頭ものブタを飼育して自給自足の生活が営まれている中、囲炉裏の周りで竹の筒を使って炊かれたご飯が香り高く大変美味しかったこと。
- e 電気のない地域で、夜に油成分が多い特殊な樹皮に明かりを灯し、古老が民族の起源に関する伝承を語り続けて、言葉が通じなくても神秘的な雰囲気を感じ取ることができたこと。

問四

傍線部 B

なさい。

について、本文の内容と一致しないものはどれか。次の中から**全て**選び、記号で答え

- a オホーツク人と道南の続縄文人の間では、クマ送り儀礼のための仔グマを通じた文化交流が行われていた。
- b 続縄文人が道南の仔グマを生きたまま礼文島に持参したか、オホーツク人が道南に向いて受け取った。
- c 儀礼のための仔グマの授受により、互いの集団が同じ文化によって成り立っていることを確認していた。
- d 仔グマの授受という交流は、舟を使って危険を伴いながら往来するものであったので、次第に廃れていった。
- e 互いの交易を安定的に進めるというメリットがあったため、続縄文人は礼文島に住む人々に仔グマを献上していた。

問五 傍線部 C とあるが、これはどのようなものか。本文中の言葉を用いて百二十字以内で説明しな

さい（句読点も一字に数える）。

問六 空欄 I と II にはどのような表現が入るか。当てはまる言葉を本文から抜き出してそれぞれ三

字で書きなさい（ただし、同じ番号には同じ言葉が入る）。

問七 傍線部 D とあるが、これはどのようなものか。本文中の言葉を用いて三十字以内で説明

しなさい（句読点も一字に数える）。

問八 傍線部 E とあるが、筆者の主張と一致すると考えられるものはどれか。次

の中から全て選び、記号で答えなさい。

a 北海道に発達した固有のヒグマ文化をあらためて見つめ直すことは、異文化理解の糸口となり、その時代の民族間、国家間の軍事力や経済力の差を理解することに通じる。

b ヒグマ文化のような「魅惑的な文化」とは何かを考えることは、地球規模で人の持続的共存を目指す持続可能な開発目標（SDGs）に結び付く。

c ヒグマ文化は人間と自然の地域固有のシステムが長い年月をかけて形成した多様な文化の一つであり、それを知ることで、ヒグマの安全な駆除方法を探ることができる。

d ヒグマ文化には、集団を結束させたり、他集団の文化を認めその間の絆を強めたりする力があり、それを学ぼうとすることで人間社会の多様性の理解や問題解決につながる。

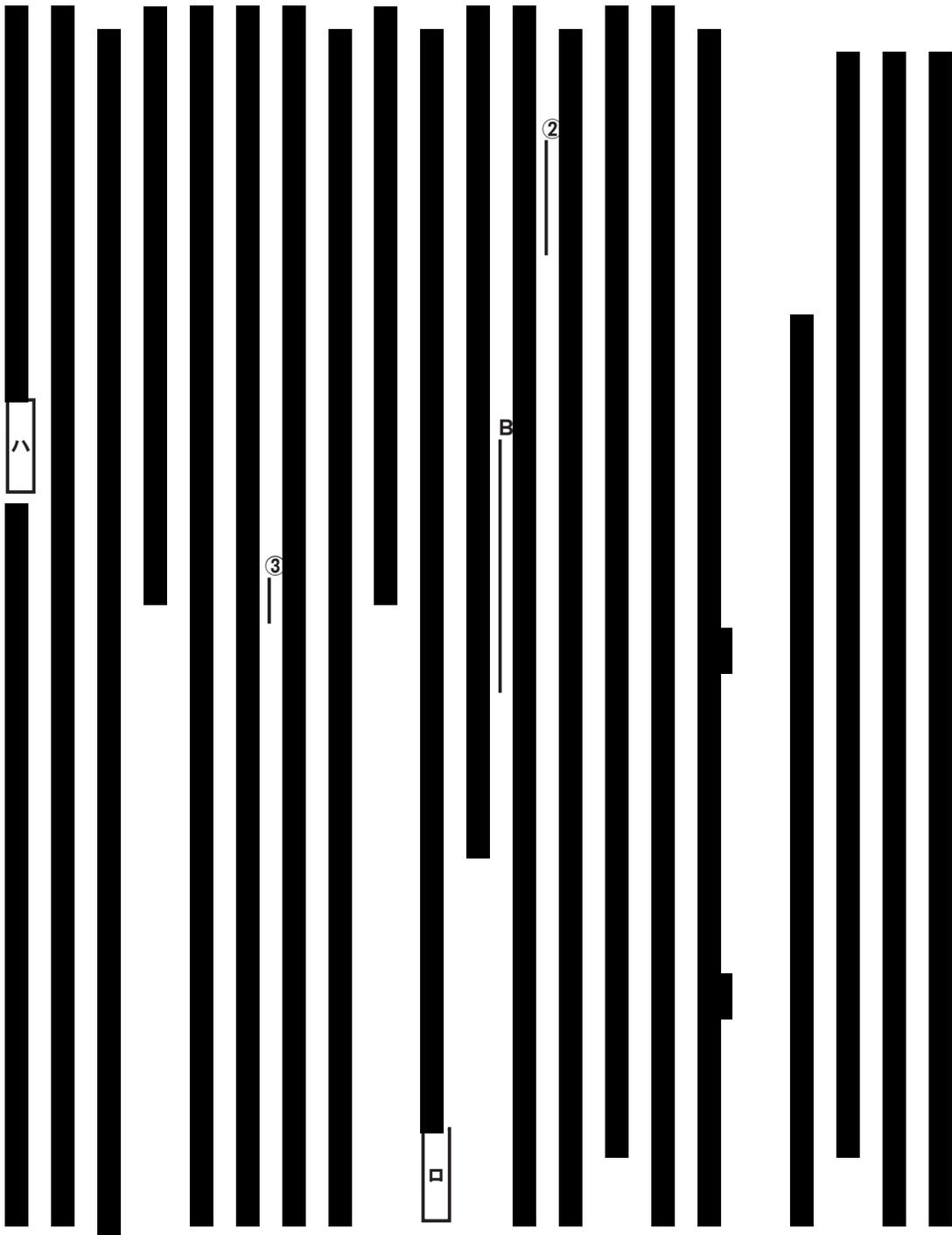
e 現代の私たちがクマ送り儀礼の文化を多方面から考えて深く知ることによって、異文化と自文化の存在意義を考え、社会の多様性の維持・重視の大切さに気づききっかけとなる。

二

次の文章は、太田肇『日本型組織のドミノ崩壊はなぜ始まったか』の一部分である（ただし、少し書き換えた）。読んで後の設問に答えなさい。

(五十点)

[Redacted text block containing the main passage with markers 'イ', 'A', and '①']



II

⑤

D

ホ

I



(太田肇『日本型組織のドミノ崩壊はなぜ始まったか』より)

い

あ

う

え

お

問一 傍線部①～⑤について、カタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで書きなさい。

問二 空欄 にあてはまる語句を次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい(ただし使用は一度のみ)。

- a むしろ
- b なぜなら
- c いっそう
- d もしくは
- e まして

問三 空欄 I と II に適する表現を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- I a 速度 b 照明 c 両輪 d 燃費 e 保険
- II a 頭 b 首 c 胸 d 手 e 足

問四 傍線部 A とあるが、どのようなことか。本文中の言葉を用いて三十文字以内で説明しなさい（句読点も一字に数える）。

問五 傍線部 B とあるが、この例としてふさわしいものはどれか。次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- a A社では、部下が上司と対等な立場で意見を言うことができる会議が増加している。
- b B社では、上司が部下を積極的に指導することや必要に応じて叱ることを控えている。
- c C社では、一族経営が続いており、最近では役員への進言を抑圧する流れが加速している。
- d D社では、働き方改革の推進により在宅勤務やオンライン会議を積極的に導入している。
- e E社では、上司からのハラスメントや社員間のいじめを隠蔽する雰囲気浸透している。

問六 傍線部 C とあるが、これはどういうことか。本文中の言葉を用いて八十文字以内で説明しなさい（句読点も一字に数える）。

問七 傍線部 D とあるが、これはどのようなことか。本文中の言葉を用いて五十五文字以内で説明しなさい（句読点も一字に数える）。

問八 空欄 あ お に適する語句を、本文及び 図 から抜き出して書きなさい。なお、筆者は「
と」を次のように定義している。

